

思ひのまゝを述べて

五八

米 山 エ ン

一、普及發達のこゝ。

贅澤物扱の幼稚園。特殊、特權階級の獨占物視されて居た幼稚園。それが茲十餘年來社會施設中の重要な地位を占めるこゝになりました、乳幼児の保護が喫緊事であるこゝを社會全般が認め叫ばれつゝある處へ、

新令發布で彌上にも幼稚園興隆熱が、各地に高まり多く設立を見る様になりました。今土地經營住宅地等の宣傳用として幼稚園を利用し一軒もない處にも設立する云ふ指定地をすでに賣り出す前から云つて居ます、どんな片田舎にも可愛いエプロン姿が見られるやうになりました。慶賀に堪えません。

かく幼稚園の存在は、社會政策上からも、教育機關の上からも、なくてはならぬ重要なものになりました。この發達普及は實際上その眞價を認められて、國家や、政府の手を

待ち切れずに民衆の聲がかくも特志家の奮起をさせたのでせうか、それなら實に我が幼稚園史上大正、昭和、を一劃期として特筆すべきであります。然し然し時には園舎の殘骸が賣出しに出て居るに會ひます、ほんまに寒氣を催し、堪えられない愁ひに淋しくなります。

子供の物位生産と利益を超越したものはありません、特に幼児教育に於ておやです、一見經營も樂で、香氣で、面白相に見えますこの教育も案外に骨が折れ、そして效果の實際立つて見えないものです、やつて見て中途で投げ出し度くなるのもほんまでせう、そして無理な經營もしなくてはならなくなり、園児に迄も大きな迷惑をかけるこゝが多々あると思ひます。これは經營者に取つて萬止むを得ぬ事ではせうが、これがひいて幼児教育上の内容、形式共に、底下さす素因を作りはしないでせうか。當局も、社會も、當事

者も、この點に用意周到な基礎工事を施すことを忘れぬやうに互助の精神で堅實な發達普及を計つて頂き度ものであるを切に望みます。

一、資格待遇のこと。

新令前(十餘年前)の保母としての修學程度及其の經歷について大要左の三種に別れるを思ひます。

A保母

我が國女子教育の發達が一地方に偏して居た爲か好學の方々も空しく其機關なく苦心され各種の方面で教育を受けて居られたが制規のものなく、公立幼稚園の練習生となり又は助手として唯保母と云ふ名稱の下にやつて居られたのである。

B保母(保母科出身)

東西女子高等師範の保母養成科卒業で高女卒業程度で入學を許可されたもの

C保母(本科正教員、又ハ尋正)

師範學校卒業生、高女卒又は同等の資格者で本正又は尋正の免許狀を有するもの。

この三種の保母の内AとBの保母が最多を占めC保母は僅であつた、而してこのC保母には俸給の制限なく恩給も堂々頂かれた、然しこの時の實情は、有資格者は年少でしかも幼児教育に入つて日も淺く経験も少ないものが多く、A保母の方々はこの時すでに我が國幼稚園教育の元老であり最高の地位の方のみの御揃ひであつた。實に保育界の草分けで非常な功勞者であるこの方々になんの恩典もない事は不合理な次第其の時の上司の方々の有り難い思召しが獨立法令發布の導火線となつたのである。

一方B保母の方々にも恩給はつかないでこの時共に運動された様に聞き及びました。

待たれた新令は發布されました。大正十五年四月二十一日意義深い日です。大祝賀會に東京まで大舉しました。そしてその時の生々とした喜びは忘れられません。居候が一時に獨立したやうな嬉しさでしたせう。

而して落着いて新令を研究して行く内にオヤオヤと思ふ節も出て來ました、本正は專正に下落した取り扱ひ、授給の恩典には浴しても發布の日より有効で、九十九ヶ條とや

らの制限令折角の功勞者への恩典も水泡に歸しました。浴されずして隱退なさいました、この心事を考へて下さい、法はやつぱり冷いものでしかなかつたのです。青春の盛り否一生を保育事業に捧げ盡して今老いて如何せんです、かかる報ひやうは我が保育界のみではないでせうか悲しいことです。

九十九條の一項は先年取れましたがその時にはすでに取れて有難く感ずる人は一人もありません。我々は保母としての教育効果を國家が認めに恩給の仲間に入れて頂いただけで満足すべきであつたのです、然るを上司の方々は年々歳々俸給のこま、年功加俸のこまにつき建議して下さいませ、このこまには關西保育會が最も熱心にその運動に骨を折つて下さいます。先づ目的を遂げるまではこの意氣でやつて下さるその御熱心は深く感謝いたします。

一、國家永遠の安全帶として

人間一個の發達そのまゝを見つめてその時に適應した教育を國家が施して國家の存續上、民族保護の下に賢にして健なる國民を造るこまは國家の第一になすべき大事業と思

ひますこの教育機關の内容の整備完全こそ國家永遠の安全地帯を造るものこ深く信じます。

幸幼稚園は文部省の統括の下にありますから幼稚園最年長組の年齢より義務教育とし小學校第一學年をこの最年長組を一團として現行一學年の課程を遊びの間に學習せしめ本體を身體の健全養護を第一義として進みたいかくする時は幼童保護上尤も効果的であると思ひます、今の幼稚園は托兒所にも歩み寄り幼稚園にしてもたしかに立つべく種研究されつゝありますが進んで彼等が行く先きは餘り考へなく先方に渡したら能事終れりとして居ますがこの一年生の生活については十分に考へ又幼稚園最年長の組の知的、身體的、情的、あらゆる方面を考察して幼兒の一生、この貴重な一生に一寸でも無駄骨を折らさぬやう考へなくてはならぬと思ひます。

人間一個の存在を考へた時其の興亡盛衰は唯にその一家の大事であつて、大いに國家的精神上から見た時は比すべくもない小事のやうです。然し纏つてこの我も。

國家存續上の大きな役目をして居るを考へた時、斷れな

い鎖の一役であると思へば自重を叫ばずには居られませ
ん。

有史こゝに三千年、この燦たる光輝の國、上には皇統無

盡、慈仁洽き聖天子を戴き、世界に比類なきこの國土の守
りこして永遠の連鎖の御役に立つ事を自覺した時實に大事
業を目指して生き甲斐ある生命を受けた事を喜び大切に自

己教養をなすべきです、幼児教育の上にもこの思想こそ大
切なものです。

今、學制統一案云々の聲盛んなる時に希は一顧、再顧、
十年経過せる新令の實績に鑑みて、今一層有効にあらしめ
られんことを切に願ふ次第です。

アンデルセン童話百年祭

「今年ば世界の子供の四人であり、特に日本の子供に最もおなじみの深い、ハンズクリスチアン・アンデルセンの逝去六十周年に當り、又其の童話の第一集及び小説の代表作「即興詩人」の發表百周年に當りますので兒童文化史上此の最も意義深い年を記念するため」のアンデルセン童話百年祭が日本童話協會主催の下に去る十一月十七日午後六時から東京九段の軍人會館に於て開催せられました。

廣い会場にあふれた會員の半數以上が子供であることも、この祭典にふさはしく、本當に和やかになつたかといふ夕でした。

デンマーク國歌の奏樂に幕があげられ、東京市長、文部、外務兩大臣、丁抹代理公使の祝辭についてアンデルセンに就いて、又作品の編譯者の紹介、そして君ケ代の奏樂によつて閉ぢられた第一部は、式典としての嚴肅さの中に、國同志一しよに祝ふといふ親しみに満ちたものが深く感ぜられました。

第二部は、歌に、劇に、童話に、ヴァラエテイ「アンデルセン童話集」といふ新しいこゝろみに、斯道の大家を網羅して、寶玉の様なあの童話の美しい世界に陶然とさせられたのでした。

今「アンデルセン」と同じ故國を持つことを無上の光榮とし喜とする」との丁抹公使のお話を思ひ出し、どうか日本に、日本のアンデルセン出でよとしみじみ願はずにむられませぬ。

(一記者)